

ボブ・パイク氏のトレーナー養成 ワークショップで明日から使える トレーニングテクニックを学ぶ

トレーナー養成ワークショップの最大の特徴は、その独自のやり方で、参加者が楽しみながら学べることだ。そして、参加者自身が参加者を楽しませるやり方を自然と学んでいくことができる。トレーナー養成ワークショップではファシリテーションをどのように位置づけているのか。ダイナミックヒューマンキャピタル社の中村文子氏にお話を伺った。



中村文子氏

ダイナミックヒューマンキャピタル株式会社
代表取締役

コンテンツを提供しながら プロセスにも責任を持つ

トレーナーの役割には「プレゼンター」と「ファシリテーター」の二つの側面がある。「プレゼンター」とは、講義を主体に行うやり方で、その中身は一方通行であることが多い。一方「ファシリテーター」とは、会議の中で中立な立場に立ち、コンテンツに対しては責任を持たないが、プロセスに対しては責任を持つ。この二つは両極端な関係にあるが、トレーナーはこの二つの中間に位置するものと中村文子氏は語る。

「トレーナーはプロセスだけをファシリテーションしていればいいわけではなく、教えるコンテンツを提供することも必要です。また、コンテンツに対してエキスパートであることはもちろん必要ですが、プロセスに工夫がなかったり、参加型にすることができないと、効果的なトレーニングはできません。ですから、トレーナーは「プレゼンター」と「ファシリテーター」の

両面を持っている必要があるのです」

中村氏によれば、参加者が持っているものをどう引き出すかがファシリテーターの役目だという。どうすれば相手の記憶に残り、実践につなげられるファシリテーションができるのか。トレーナー養成ワークショップでは、その方法を実際に体験しながら学んでいくことができる。

ファシリテーションに 対する特徴的な考え方

トレーナー養成ワークショップでは、「どうやって人と人との関わりの中で参加者に参加してもらえるか」と考え、その方法として「CIO」をあげている。これは「Control」「Inclusion」「Openness」の頭文字で、この三要素を念頭に置いたファシリテーションをすることで、参加者主体の研修が実現されるのである。

Control（コントロール）

ここで言うコントロールとは、選択権や決定権のコントロールのことであ

るが、トレーナー養成ワークショップではそのコントロールを研修の参加者に渡してしまう。参加者が自分で決めることで、オーナーシップを高め、「やらされている」と感じさせないのだという。もちろんその中には、こうなって欲しいというトレーナー養成ワークショップ側の思惑が存在する。そこを自然な誘導テクニックで誘導することで、参加者にやらされていると感じさせずに、研修を思惑通りに進行させていくのだ。これを中村氏は「トレーナー主導、参加者主体」と表現している。例えばそれは部屋に入った時、最初にどこの席に座るかということ、トレーナーではなく、参加者に決めさせるのだ。席決め以外にも、自己紹介をする場面では参加者全員の前で一人ずつ順番にやるのではなく、「まだ話していない人と話をして下さい」と明確に指示をだし、実際に誰と話しをするかは参加者に委ねる。一つひとつは些細な「しかけ」だが、オープニングから何度も繰り返すことで、参加者が発言できる空気が作られ、自然と参加型の研

修に入りこめるのだ。

Inclusion (インクルージョン)

インクルージョンとは全員を巻き込むという意味で、この要素はリーダーを決める時に関係する。参加型の研修では活発に参加する人とそうでない人が出てしまいがちだが、それを出ないようにするのがファシリテーターのテクニックだという。リーダーを決める際に誰か一人に決めてしまうのではなく、ランダムなローテーションで全員が最低一度はリーダーになるようにする。そうすることで気がついたら全員参加になっているというわけだ。また、その他にもディスカッションに入る前に、全員に何か意見を書いてもらい、書いたものを持ち寄って参加してもらうのだが、前置きとして「一人一本ペンを持って下さい」というだけで何も書かない人が出てこないで、全員が参加をするプロセスになるのだと中村氏は語る。そして、個人で考えて書く時間を持つことで発言しない人がでないということにより、次の要素の「Openness」(オープンネス)につながり、オープンに学ぶ環境ができていくので

ある。

自分自身で体験したことを反映できる

トレーナー養成ワークショップでは自分が参加者として体験することで、その効果を実感することができる。そしてその体験をしたことをグループディスカッションで実践することで、参加者の記憶に深く残るのだ。中村氏曰く「人は他人から聞いたことは20%しか記憶されないが、自分が言ったことは80%も記憶している」という。この原理を応用するため、ファシリテーションテクニックを駆使し、全員が発言するようにしているのだと。例えば午前中の講義を聞いて、大事だと思ったことを一人が三つずつ考える。その後発表をしてもらうのだが、その際に一人が一つ発表したら次の人に順番が回り、その次の人がまた一つだけ意見を言う、という方法をとっているのだという。この方法だと「前の人と同じ意見です」という回答が出にくく、全員が意味のある意見を言う機会が増えるのである。その結果、質の良いトレーニングを短時間で行うことが可能となるのだ。

ファシリテーターにとって、様々なプロセスを使いこなすにはテクニックよりも「コントロールを渡す勇気」が必要なのだと言っている。中村氏は語る。「大事だと思うポイントは人によって違います。トレーナーが『ここが大事だか

ら覚えて!』というのではなく、参加者自身が『何が大事で何を活用するのか』を決めることでオーナーシップを高めてもらうのです。もちろんそのポイントが大きすぎていては困るので、ファシリテーションのテクニックである程度は誘導をしますけどね」

参加者自身が効果を体験できるこの研修は、今までの常識を覆すようなトレーニングテクニックを学ばせてくれる。ここで体験したことは、会社にとってきっと良い回転を起こしてくれるだろう。ぜひ体験をし、学んだことを実行していただきたい。

<書籍のご案内>

『クリエイティブ・トレーニング・テクニック・ハンドブック』

英語版は30万部の実績の同書。日本語版がついに発売になります。9月発行予定。詳しくは下記にお問い合わせ下さい。

<セミナーのご案内>

トレーナー養成ワークショップ開催

トレーニングの奥深いところを体感してみて下さい。

■日程

08年10月15日(水)、16日(木)

09年2月18日(水)、19日(木)

5月19日(火)、20日(水)

9月8日(火)、9日(水)

11月18日(水)、19日(木)

時間は全て9:30~17:00(今年10月は9:00~16:30)、会場はヒルトン東京です。詳しくは下記へお問い合わせ下さい。

●お問い合わせ先
ダイナミックヒューマンキャピタル株式会社
〒220-0023
神奈川県横浜市西区平沼1-14-3-702
TEL: 03-5282-3029
FAX: 03-5283-8416
E-mail: info@d-hc.com
URL: http://www.d-hc.com

